

2002年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2002年(平成14年)9月24日(火) 15:30～16:15

場所：L-921

出席者：計 75名

欠席者：計 35名

配布資料(事前配布)：

- 1 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 新学部(ヒューマン・ディグニティ:仮称)構想

配布資料(当日配布)：

- 1 2002年度第3回 長期計画企画拡大会議 議事記録
- 2 [資料1]企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書
- 3 [資料2]新ホフマン計画/最終報告 その後の進捗状況

会議資料(プロジェクト投影)：

- 1 「グランド・レイアウト」における、今後検討を促進すべき事項

議 事

1. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における様々な企画案の検討を踏まえて、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

(a)「新学部(ヒューマン・ディグニティ:仮称)構想」

- 池尾・学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から最終報告書に関する説明があり、その後、学事部学務課・長谷川課員(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。
 - － 2001年9月の理事長からの諮問に基づいて、アカデミック・プラン等検討専門第1委員会に検討部会を設置して、新学部に関する検討を行ってきた。
 - － 対象となる、教育、心理、社会福祉の各学科を中心に、新学部が大学にとってプラスとなるか、あるいは、今後発展が見込まれるか、などを基本に、さまざまな課題について検討を行なった。
 - － 理事長諮問に含まれていた「看護」の分野については、現段階では検討できない部分が多いため、最終報告では除いている。
 - － 今後、看護分野を加えて、2004年度内に検討を終えたいと考えている。ただし、今後の検討の進み具合によっては、スケジュールが早まる可能性もある。
 - － この最終報告書は、新学部構想の次の段階に進むための、現時点でのまとめとして位置づけている。
- 喜田・社会福祉専門学校長から、新学部構想について、以下の意見が出された。
 - － 現在、社会福祉専門学校には、企業に勤める社会人が入学し、学ぶケースが増えてきている。また、上智社会福祉専門学校検討専門委員会が2002年3月に提出した最終報告書にも、新学部との協力体制に関する意見を盛り込んでいる。そのため、今後一層

大学との協力関係が不可欠であり、この新学部との協力体制を是非勘案してもらいたい。

〈質疑応答〉

- Q. 社会福祉学科で編入学を多く受け入れるようだが、どのような学生を編入の対象として考えているのか。
- A. 一旦大学を卒業して社会に出た方、あるいは、他大学からの学士入学の学生で、社会福祉を学びたいと考えている人を対象にしたいと考えている。
- Q. 心理学科の研究室、実験室、実習室等は現在学内に分散しているが、これらは統合されるのか。
- A. 心理学科は、9号館6階にかなりの施設を持っており、ここをそのまま利用するという案もあるが、最終的な決定はまだ行なわれていない。
- Q. 言語学専攻の言語障害コースは、この新学部構想に関係しているか。
- A. 言語障害コースの入っている6号館は、将来取り壊すことになっているため、四ッ谷駅に近い場所に移転・設置することを検討している。なお、言語障害コースの置かれる場所については、その所属が、大学院なのか、研究所なのかが明確になっていないため、整理してもらうよう、関係者にお願いしているところである。

最終報告書の審議のあと、議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2002年9月30日(月)までに事務局(長期計画企画室)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

2. 「グランド・レイアウト」における、今後検討を促進すべき事項について

高祖理事長から、これまで検討されてきた企画等以外のことにも、グランド・レイアウトの中には重要な項目があり、今後スピードを早めて議論し、中間報告あるいは最終報告を取りまとめてほしい、との要請があった。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

(a)全人教育の目指すところ ～その目標と範囲～

- 上智大学の学部教育のベースと特色を早急に固める必要がある。

(b)学生への配慮を充実させるために

- 上智大学は、一人一人を大切にすることを標榜し、実践してきている。
- これまでの議論では、学生に関わるものが抜け落ちているものもあるのではないか。
- 授業や学生生活の充実をいかに保証するかを検討してほしい。

(c)入試制度の総点検と見直し

- 良い学生、上智大学にふさわしい学生をいかに獲得するか、AO入試などの入試制度とも絡めて検討してほしい。

(2)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

(a)対内外の大学研究機関との学术交流の総点検と見直し

- 国内外の大学等研究機関との学术交流において、これまで行なわれてきたことの評価を行ない、必要であれば見直しを行なう。上智大学における優位性と独自性の樹立に向け、

学术交流分野の促進を図る必要がある。これは、COEにも関わる課題である。

(b)研究科の再編

- 現在の研究科が、時流に合っているか、上智の発展につながるか、などの観点から、存続あるいは再編の検討を行なってほしい。なお、研究科の再編は、研究所・センターの再編とも関係する。

(c)研究業績主義の導入

- 昨今は、研究業績を重視する傾向にある。研究業績主義を導入するにあたっては、大学のあり方にも関わることであり、上智大学にふさわしい形で展開するための方策や時期等を検討する必要がある。

(d)大学院担当教員の身分

- 独立大学院構想における実務家教員は、従来の方法では対応できない。
- 今までは学部にも所属し、大学院の授業を兼任する形をとってきたが、大学院のみを教える教員となると、その処遇などが異ってくる。これらは早めに検討する必要がある。

(3)フィジカル・プラン等検討専門第1委員会

(a)事務業務体制の評価システムを確立するための諸方策の検討

- 事務システム化等IT基盤の整備により、優先順位など業務の見直しが行なわれてきている。何を基準として業務内容を見直していくのか、全学的な評価システムを確立していく必要がある。ただし、これらは事務局再編と表裏一体であり、また、予算や人事の基本方針とも深く関わる問題であることを認識しておく必要がある。

(b)会議体の総点検と再整備

- 名前だけで実際に活動していない会議体、名称は異なっても常に同じメンバーが出席する複数の会議、など、本当に必要なかどうかを総点検し、新しい時代に合った形で整理統合すべきである(ただし、場合によっては新設もあり得る)。

(4)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

(a)新築・解体計画に沿って

- 当面、新2号館への移転に限って検討していくが、2005年度の夏期休暇中に予定している移転作業をスムーズに行なうために、今のうちから手順等の検討を始める必要がある。
- 解体及びリニューアルについては、いつ、何を、どのように行なうかを、財政的な裏付けとともに検討する必要がある。また、解体の跡地に何を作るかも早めに計画を進めるようにする。

3. 「新ホフマン計画 / 最終報告」 その後の進捗について

高祖理事長から、資料2(当日配布)に基づいて、これまでに最終報告が行なわれた企画案についての現在の進捗状況について説明があった。

4. 次回会議について

次回会議は、2002年11月6日(水) 午後3時30分から、L-921で行うこととする。

以上